

がたてつづけに死んでいる山口さん。今後はいつたいたいどのような高みを目指していくのか、自然と周りの期待が集まる。国民スポーツ大会で一位になったということは、やがてはオリンピックなどの国際試合への出場も果たすのではと想像される。

とはいえ、レスリングという激しいスポーツには怪我がつきもので、さらにレスリングといえは階級別の厳しい体重管理も強いられる。国内トップレベル



★級に出場し、厳しい減量にも耐え、手に汗握る接戦をみごとに制して、高校2年生ながら立派に優勝を果たしたのだ。大舞台での活躍

7月のインターハイ優勝に続いて8月の全国高校生グレコローマン選手権大会優勝と、本校2年生の山口寛汰さん（大富中学出身）が大きな成果を挙げ、新聞などメディアでも紹介されて話題をよんだ。そんな山口さんが、今度は国民スポーツ大会で偉業を成し遂げた！10月上旬に静岡県代表選手として滋賀で開催された国民スポーツ大会グレコローマン51

国民スポーツ大会でも優勝 レスリング51kg級 快挙達成2度の日本一！ 2年生山口寛汰さん 静岡県代表を背負い、気迫あふれるパフォーマンス



10/3全校生徒の前で国民水の優勝を誇る山口さん。おめでとう！

国民スポーツ大会引率/熱戦を見届けたレスリング部顧問・芳村先生の観戦コメント

今大会は学校単位の代表ではなく、静岡県の代表としての参加でした。静岡県内で一番強い選手が出場するわけですが、山口選手は、8月にウカルちゃんアリーナ（滋賀県）で開催された全国高校生グレコローマン選手権に出場し、7試合を勝ち抜き優勝しています。レスリング界では2年生で全国チャンピオンになることは珍しくありませんが、彼は1年時に今年度優勝した全国高校生グレコローマン選手権でベスト8という成績でした。また全国総体には県予選で敗退し、出場もできていませんでした。そのような悔しさを味わった山口選手は、改めて自分を見つめなおし、全国で優勝するため何をしなければならぬのかを考えて学校生活を過ごしてきたと思います。そんな中で迎えた今大会は、**追う立場から追われる立場**となり、本人が力を十分に発揮できるかどうか心配でした。今大会は決勝まで4試合ありました。10月1日に2試合、2日に2試合、**両日ともに試合の2時間前に計量**を行います。1日目の計量に合格すると試合ができますが、ある程度の栄養を体に入れないと試合に勝てません。1~2kgほど栄養を補給し、2試合を行いながら体重を調整していきました。そして2試合とも勝利し、2日目に残ることができたのです。1日目の試合を終えた時点で1.2kgオーバーしており、そこからアップ場で体重を落としてきました。2日間の計量が終われば、2~3kg程度試合を行います。前回の大会と比べ今大会は相手の投げ方による失点が多く見受けられました。山口選手は体が非常に柔らかいため投げられることがあまりないのですが、今大会では横構えが崩壊が原因になっており、投げられることが多かったのです。しかし、その失点からすぐに得点を奪うことができるのも山口選手のストロングポイントです。グランド(寝技)状態から相手を上に持ち上げて投げるリフト技や、相手をマット上で一回転させてリングでポイントを重ねることに成功し、見事に勝利を自分のものにしました。2年生になり大きな成長を遂げたことを実感しています。ぜひ山口選手の応援をこれからもよろしくお願いします。



「今年度山口さんの活躍を祝ったグラウンドで撮影された写真」



同校初のメダル



ルの結果を確実に出し続けていくというのは、まったくもって容易ではないはずだ。

注目の集まる山口さん自身も、今後の展望を尋ねてみた。「高校に入って練習量が増え、きついと思う時もありました。でも自分を信じてやってみて、本当によかったです。2年生で二冠を果したことはとても嬉しい。でも『自分はまだまだ』とも思っていて、勝ち続けられるように、もっと努力したい。昨年までは、相手に点数を取られてしまうとメンタル面で焦ってしまい、自分のイメージ通りの試合ができませんでした。本当に、周りの方々に支えてもらっているおかげで、だんだんと自分の思いえがく試合展開を作ることができるようになりました。毎日指導してくださる先生や応援してくださる方の存在はほんとにも大きいです。そして、親への感謝の気持ちは一番強いと思います。皆さんの期待にこたえられるように、これからもがんばります。」

山口さんには兄が5人いて、兄姉そろってレスリングに親しんでいた。その影響で幼いころにレスリングを習い始め、小学1、

「毎日多くの練習が毎日ある。練習のたびにエスカレーターのように階段を上り下りして、物事を果たした山口さんの活躍を祝っている。」

レスリング部顧問・西島先生から見た山口寛汰選手

1年生の頃から優れた才能を持つ選手でした。当初はケガやメンタルコントロールなどに悩まされることもありましたが、練習に真摯に取り組み、少しずつ実力をつけていきました。これまで技術面だけでなく精神面の成長を促すことを意識し、練習への取り組み方や試合中の気持ちの切り替え方、勝負に臨む姿勢などについてアドバイスを重ねてきました。練習試合を通じて多くの経験を積み重ね、試合運びにも落ち着きがみられるようになり、東海大会以降は安定感と自信をもって試合に挑むようになりました。インターハイでは1試合ごとに成長を遂げ、決勝まで駆け上がる快進撃を見せました。その決勝での惜敗が、全国グレコローマン選手権優勝そして国民スポーツ大会優勝へとつながったのだと思います。今回の優勝は、技術と精神の両面での大きな成長の証です。今後のさらなる活躍を期待しています。



2年生のときに全国大会で優勝を経験した。優勝経験はそれ依頼ながら遠のいていたが、今年のことまでの自分の戦績については素直に嬉しく感じ、同時に、「自分でもびっくりしている」と口にする。



リラックスして友人と過ごす時間の大切さ (左側)

北高レスリング部で山口さんの良き練習パートナーとして常に切磋琢磨しあっている望月陸玖さん(3年生)に、山口さんの人柄について尋ねた。

「寛汰は、どんなことでも全力で取り組み、けじめがしっかりとしてくれる人です。明るい人柄で、その場の雰囲気を変えてくれる存在です。一緒に練習をし、ここまで彼の成長を近くで見させていただきましたが、



つらいことや悩むこともいろいろあったなことに苦勞してきたと思いますから、だろーと思えます。減量をしなければならぬというプレッシャーで精神的に苦しさを覚えたという経験です。さらに、練習相手が今の状態だと少ないと感じるので、もっと練習の相手になる仲間がたくさん増えれば、その方が彼にとっても良いことではないかと思えます。」

先輩でありパートナーである望月さんですが、練習するときはしっかりと、山口さんときどきに気遣い、ときには見守りながら、同じ競技の選手として、山口さんの技術を自分自身にも取り入れる努力をしている。「寛汰との練習で、彼の技術を真似てみたりもします。そして、「自分にもできるな」と勇気づけられる優勝、本当におめでどうことがあんでございます！」



同じ部活動 十一月には静岡県知事への仲間に、全国表敬訪問する予定の山口さで一位の選手が。全校生徒に優勝報告をいれるというのにはそのスピーチの中で、大きいです。減量から解放されて食べたという人がそばハンバーグがとてもおいしういだけ、かつた話してほえんで「一点でも取りたい姿が印象に残っている」と、意識北高生も多いだろう。

山口さん(ともに1年生)にも、山口さんの今回の結果は、部員たちにぜひこれからも技術と精神の両方を高め、

「寛汰先輩の大会結果は、部員の練習に大きな刺激を与えていると思ういます。3時間の練習を終えた後も、部員が率先して筋トレをしていく光景がよく見られ、「彼に追いつきたい」とい「彼のようになりたい」とい「彼の思いの伝わってくる姿が多々見られます。」



北高レスリング部での練習風景

高校生活はすでに後半戦に入ってきた。周囲の応援を力に変えて、北高レスリング部の仲間たちとともに前進しつづけていってほしい。

日々の練習を着実に積み重ね、たくさんの汗を流しながらトップレベルへの階段を一段また一段とのぼってきた一方で、「自分はまだまだ」と、謙虚に自己分析している。これから、どんな選手に成長していくのか。

